

# 日刊 動労千葉

85. 8. 6

No. 2008

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二、二二七二、〇七

## 「今聞わなくて、いつ聞うのか」(飛鳥田氏) 飛鳥田、高島、藤原氏を招き「夏季労働講座」を開催(7/26)



各支部からの役員・活動家60名が結集し、夏・秋からの決戦開始への武装をかちとった。

動労千葉は七月二六日に「夏季労働講座」を開催し、反動中曽根内閣の戦争へむけた反動攻撃と対決して闘う立場から、社会党前委員長・飛鳥田一雄氏等を講師に招き、「破防法」についての学習を行った。

藤原氏（破防法被告）が破防法との闘いについて講演

「夏季労働講座」は教育会館において各支部の役員、活動家を中心に六〇名の組合員が参加して開かれた。

最初に本部を代表してあいさつに立った布施書記長は、「夏季労働講座」開催の意義を述べるとともに、この日提出が予定される監理委の「答申」について説明し、動労千葉の基本的立場を明らかにした。

つづいて、第一講座「破防法を弾劾する」をテーマに、破防法被告団の藤原慶久氏から講演を受けた。

藤原氏は一九六九年の「4・17新入生歓迎集会」での演説に破防法が適用されて事後逮捕され、今年の三月四日、「せん動罪」をもって懲役二年六カ月の判決が出されたが、十六年間にわたる裁判闘争の過程で暴露された、破防法の不当性、その恐ろしい本質について明らかにされた。

高島氏が破防法制定当時の闘いについて講演

第二講座は「労働運動と破防法」をテーマに、労働運動研究家・高島喜久男氏の講演を受けた。

高島氏は、破防法制定当時の情勢と反対闘争の生々しい経過について、様々なエピソードもまじえて紹介された。すなわち、日帝が自立するための出発点としてあった破防法が、今日の体制的危機のもとで、再び破防法を適用せざるを得ない状況に追いこまれている点を指摘し、破防法反対の闘いを全国的運動にしなければならぬと訴えられた。

飛鳥田氏が反ファシズム国民戦線の創造を熱烈に訴える



豊富な体験をもまじえた熱気こもる講演。——飛鳥田一雄氏——

第三講座は「ファシズムと国民運動」をテーマに、飛鳥田一雄前社会党委員長の講演を受けた。飛鳥田氏は、国鉄「分割・民営化」、臨調による教育破壊、地方行革の労働運動つぶし、「破防法」「国家機密法」による言論の自由の弾圧と、中曽根が二つの方向から管理ファシズムの攻撃を強めている点を指摘したうえで、沖繩、三沢基地をはじめとする核武装化・軍事大国化の具体的事実と、破防法・スパイ防止法攻撃の狙いと本質について、戦前の治安維持法の例をひいて明らかにされた。

そして、中曽根の戦争国家化の攻撃と闘うのは今においてないことを強調し、反ファシズムの広範な戦線をつくるために労働者の決起を訴えられた。

中野委員長が今日を出発点に闘う決意を表明

最後に中野委員長が「まとめ」を行い、ペテンとぎまみに満ちた監理委「答申」について具体的に解明し、国鉄労働運動解体攻撃と闘うことを呼びかけた。

とりわけ、「分割・民営化」に賛成し、十万人首切りの先兵として登場している動労「本部」革マルの反動性を暴き、追放一掃の必要性を説くとともに、三里塚二期着工阻止、行革審粉砕の闘いと結合させ、職場生産点から闘いに決起し、地域に広げ、憎しみと怒りをもって闘い抜く決意が述べられた。

受講生は各講師の講演に真剣に耳をかたむけ、今日を出発点に「六二年四月の分割・民営化」を実力で粉碎するべく、これまで培ってきたあらゆる力をふりしぼって打ちむかうことを決意をこめて団結ガンバローを三唱し、飛鳥田、高島両講師を拍手で送り出し、「夏季労働講座」を成功裡に終了した。